

土佐のわらべ

第417号《第439回（2016. 7. 14） 子どもの本の読書会記録》参加者5人・文書参加2人

『ぼくのメジャースプーン』

辻村 深月／著 講談社

好きな作品なのですが、紹介が難しく、今回、読書会で皆に読んでもらえて、話合えてうれしかったです。

小学校で飼われていたうさぎが、身勝手な悪意で惨殺され、それを4年生のふみちゃんが見つめます。ですが、その日の餌やりの当番は、本当は、ぼくだったのです。熱を出して代わってもらったばかりに、友達の子を血だらけのうさぎの第1発見者にしてしまいます。その、ぼくのお話です。

子供に読んでもらうのに、難しいと思うという声や、残酷なシーンから、どの位から読んでもらえるかという話もしましたが、私は、子供は、守られるべきだとは思いますが、理不尽や悪意から、完璧に守ることが無理な以上、沢山の考えを知ってもらいたい。

特に、この本は、一つの物事に、多様な意見が出て来る所がお薦めです。善にも悪にも、人間にも動物にも、責任にも能力にも、正義にも愛にも。例えば、

「賛成かどうかはともかくとして、正しい姿勢だと思います」

と言われるような意見や、

「間違っても賛成はできませんが、その意見は、嫌いではありません」と言われる意見なども。

子供は、プライドの高い生物です。傷つければ、どんな、どれほどの反応をするか、無茶な闘いを子供にさせるべきではないので、大人にも子供にも、こういう本を、ぜひ読んでもらいたいです。子供が早く、大人になるのは、少しさびしい気がしますが、いつかは、強かな大人に成ってもらいたい。子供が、子供のままで、終わってしまうことがないように。

(M. O)